

2023年1月15日 礼拝説教要旨

詩編講解説教134「旅の目的」

詩編134：1～3、フィリピ3：17～21

詩編第134編は120編から続く一連の「都に上る歌」巡礼歌の最後の詩編となります。たった3節の短い詩編ですが、この3節の中に「主」と訳される神の名「ヤハウエ」が5回、また新共同訳聖書では「たたえる」（1、2節）「祝福する」（3節）と訳されている言葉「ベラカー」が3回出てきます。いずれも旧約聖書では重要な語句で、それがこの短い詩編の中にこれだけ含まれているということだけでも、この詩編が特別な意味合いを持っていることを伺わせます。

巡礼歌の最後という位置付けは、この詩編に巡礼の目的、巡礼者たちが何を目指しているのか。彼らの旅の目的が込められていると申し上げてよいでしょう。それは直接、わたしたちに当てはめて考えることもできます。巡礼の旅をこの一週間の生活と捉えるならば、わたしたちはこの日曜日の礼拝を目指して歩んでいるわけで、礼拝とは何か、ここで何が起こっているのか、そのことが教えられていると理解することができます。あるいは、この巡礼の旅を人生の旅路と捉えるならば、わたしたちの人生の目的は何か。どこを目指してわたしたちは生きているのか。そのことが示されていると捉えることもできるでしょう。

神さまに対して罪を犯し、樂園を追放されたわたしたちは「塵にすぎないお前は塵に帰る」（創世記3：19）と死に定められた存在でありました。パウロも「罪が支払う報酬は死である」（ローマ6：23）とし、罪の奴隷であるわたしたちが行き着くところは死にほかならないと述べています。ですからそのままでは、人間は死を目的地にしている存在です。けれども驚くべきことにその目的地が変更されるのです。それが神さまの救いです。死に向かって突き進んでいた人生が、永遠の命、神さまの祝福に向かう人生になった。これは人生にとって大きな転換、非常に意味あることではないでしょうか。

ではその人生の目的、神さまに祝福されることとは、具体的にどういうことでしょうか。「主の僕らよ、こぞって主をたたえよ。夜ごと、主の家にとどまる人々よ、聖所に向かって手を上げ、主をたたえよ」（1～2節）とあります。「夜ごと」とありますが、巡礼者たちが夜エルサレムに到着するという事も考えられました。夜の闇の中、ようやくエルサレムにたどり着き、安らぎ、安心を覚える人々は多かったと思います。ここを読んですぐに「主は羊飼い」の詩編第23編を思い出しました。23編は最後「主の家にわたしは帰り、生涯、そこにとどまるであろう」（23：6）で閉じられます。ここにも帰るべき場所、目的地として「主の家」が表現されています。そこに辿り着くまでは、死の陰の谷を行く旅路、様々な危険が潜んでいるところを旅していました。それがわたしたちの人生です。だからこそこの死の陰の谷をくぐり抜け、主の家に帰り着くことこそ、旅人が切に望んでいたことでしょう。ですから「夜ごと、主の家にとどまる」という表現は、危険な闇の中を旅してきた緊張から解放されて、主の安息の中に迎え入れられることを意味しています。しかも詩編23編では「あなたはわたしに食卓を整えてくださる。わたしの頭に香油を注ぎ、わたしの杯を溢れさせてくださる」（23：5）とあります。そこには豊かな食卓、命の養いがあります。わたしたちの人生の行き着くところもそのような主の養いと安息に満ちたところであるという約束です。

この人生の旅の目的地である「主の家」が安息の地であることを思う時に、次の3節の意味がまた見えてまいります。「天地を造られた主がシオンからあなたを祝福してくださるように」(3節)「天地を造られた主」という表現がありますが、それは天地創造の御業を思い起こさせます。創世記の天地創造のところを読みますと、神さまは最後に人間をお造りになられて次のように言われました。「彼らを祝福して言われた。産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ」(1:28)そして造られたすべてのものを御覧になられ「見よ、それは極めて良かった」と言われ創造の御業を完成されて、第七の日を安息日とされました。「この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第七の日を神は祝福し、聖別された」(2:3)とあります。それゆえ「天地を造られた主がシオンからあなたを祝福してくださるように」という祝福は、まさに天地創造の時の「極めて良かった」と神さまが言われて造られたすべてのものを祝福された祝福であり、全てを完成されて安息なさった祝福と捉えることができるのです。ここにわたしたちの人生の向かう場所、本当の目的地があります。

神さまに対して罪を犯したわたしたちは、果たしてこの祝福に入れるのかと心配するかもしれませんが、けれどもそのためにイエス・キリストが与えられて、わたしたちのすべての罪を十字架で贖ってくださいました。そして三日目によみがえられ新しい命で満たしてくださいました。わたしたちが洗礼を受けることはそのよみがえりのキリストに結ばれて、新しい命に造り変えられることに他なりません。「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです」(Ⅱコリント5:17) わたしたちはキリストによってもう一度、神さまの祝福された「極めて良かった」あの祝福された人間に造り変えられるのです。わたしたちはその目的に向かってこの地上を旅しているのです。

毎週の礼拝はその人生の目的、祝福された完成の先取りです。何より教会はこの日曜日を安息日と決めました。それはこのキリストのよみがえりの日に、わたしたちもまたキリストと共によみがえりの命に生かされ、神さまの祝福に満ちた安息にあずかる者とされたことを覚えるためです。礼拝においてわたしたちは、やがて自分がたどり着く人生の目的地が、そのように祝福に満たされたものであることを垣間見ることができるのです。それは危険なこの世の旅路を歩む者にとって大きな励みとなるでしょう。